



環境リモートセンシング 研究センター

Center for Environmental Remote Sensing

Newsletter No.199

千葉大学環境リモートセンシング研究
センター ニュースレター 2022年6月
発行：環境リモートセンシング研究センター
(本号の編集担当：近藤昭彦)
住所：〒263-8522 千葉市稲毛区弥生町 1-33
Tel: 043-290-3832 / Fax: 043-290-2024
URL: <https://ceres.chiba-u.jp/>

JpGU Meeting 2022

「環境リモートセンシング」セッション開催報告

5月22日(日)～6月3日(金)に日本地球惑星科学連合(JpGU)の2022年大会(JpGU Meeting 2022)がハイブリッド形式で開催されました。今回の大会は、前半(5月27日まで)はハイブリッドで口頭発表とオンサイトのポスター発表が行われ(オンサイトの会場は幕張メッセ)、後半(5月29日以降)はオンラインポスター発表の期間に設定されました。私、齋藤が代表コンビーナを務める「環境リモートセンシング(Environmental Remote Sensing)」セッションでは、5月27日の午前中の1コマ90分で6件の口頭発表、6月2日の午前中に4件のオンラインポスター発表が行われました。本セッションの目的は、リモートセンシング技術を利用した地球環境に関する研究テーマを広く対象とし、リモートセンシングによる環境変動および自然災害の発見、理解、解決といった地球診断に関わる研究成果を発表する場を提供する、というものです。セッションの趣旨の通り、大気、植生、土地被覆から海洋に至るまで、あらゆる分野のリモートセンシングの応用研究の成果が発表されました。

27日の口頭発表では、共同コンビーナである入江准教授が座長を務め、活発な議論を促していました。オンサイト発表とZoomによるオンライン発表がちょうど半分ずつとなりましたが、JpGU運営側の準備が十分になされていたため、特に混乱もなく、スムーズに進行しました。オンサイトの参加者が13名、オンラインの参加者も含めると全体で70名弱の方がセッションに参加して下さり、オンサイト、オンライン双方から質疑があるなど、ハイブリッド開催のよい面が活かされたセッションとなりました。一方、後半のオンサイトポスター発表は、本セッションだけではなく全体に参加者が減少する傾向で、ハイブリッド+オンラインとはいえ、約二週間にもおよぶ大会期間は「長すぎる」という印象を受けました。来年度は再びオンサイトの通常開催に戻ることを願っています。

(齋藤尚子)

CEReS & Irie Lab Special Seminar の開催報告

～ 齊藤雅典 博士 (Texas A&M University) の講演 ～

2022年6月1日に、千葉大学環境リモートセンシング研究センターの1階会議室およびZoomのハイブリッド形式で、CEReS & Irie Lab Special Seminarを開催しました。本セミナーでは、Texas A&M Universityの齊藤雅典博士より、「リモートセンシングの高度化に向けた大気非球形粒子の光学特性モデル」という題目でご講演いただきました。齊藤博士は、東北大学大学院で岩淵研究室のD1だった2014年12月に、当研究室にお越しになり、千葉大学西千葉キャンパスの工学系総合研究等Iの屋上で薄明時の観測を行いました。また、最近では令和2年度に、CEReSの国際共同利用研究の研究代表者としてCEReSの研究活動を活性化していただいております。今回、来日のタイミングで講演をお願いしました。講演は、大変丁寧で学生にも分かりやすく、皆の見本となる発表でした。この齊藤さんの講演

を聞いた学生は、自身の今後のキャリアで必ず思い出し役立つと確信しました。この場をお借りし、素晴らしい講演をしていただいたことにお礼申し上げます。ありがとうございました。

(入江仁士)



図 久々に CEReS 会議室でセミナーを開催しました。現地に加え、オンラインの参加者（海外も含む！）も交えてたくさんの質疑応答が行われ、大変議論が盛り上がりました。

◆◆◆ 新任职員の紹介 ◆◆◆

■ 武藤 裕花 特任助教：小槻研究室

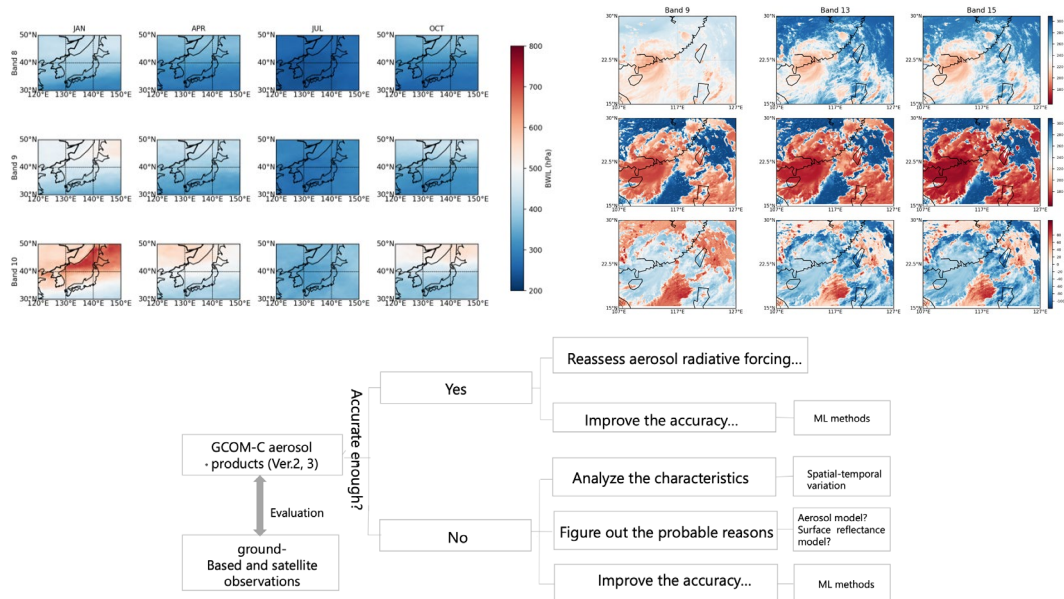
2022年6月より CEReS の小槻研に特任助教として着任いたしました、武藤裕花と申します。私は学部時代から東京大学の河川／流域環境研究室（工学系研究科社会基盤学専攻）に所属し、本年3月に博士後期課程を修了いたしました。その後は、同研究室に日本学術振興会特別研究員（PD）として本年5月まで勤務しておりました。博士課程では、流域の地質・地形特性と人工林の管理状況の関係性や、それらが水動態に及ぼす影響について、研究しておりました。地質が多様な日本において、それぞれの地域性に応じた人工林の管理方針を、水資源の管理という観点を含めて考える上で、重要な基盤となるテーマだと考えております。また、この他にも、気候変動および人口減少に伴う農地の縮小が流域の水・土砂動態に及ぼす影響、水害常襲地における人口動態など、自然環境と人間活動の相互作用に関連するテーマ全般に興味を持って、研究に取り組んでまいりました。

さて、私が今まで取り組んできた研究における主な手法は、フィールドワークや統計解析、GIS でした。とりわけフィールドワークでは、現場を自分の目で確かめ、現地感覚を持った人にお話を伺うことができるため、私が研究を行う上で大きなモチベーションとなってきました。しかし今後はそれに加えて、衛星観測や数値シミュレーションを活用した分析も行いたいと考え、小槻研の研究員に応募させていただきました。今は新しい環境の中で、周りの皆さんからたくさんの刺激を受けながら、日々学んでおります。CEReS にていい研究を進めていけるよう、励んでまいります。今後ともご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。



Joining Irie lab and having fun: a letter from WU YOU, a new member of Irie laboratory

On October 2020, I was introduced to Associate Professor Hitoshi Irie at the Center of Environmental Remote Sensing (CEReS) of Chiba University by my mater's supervisor for pursuing a doctoral degree. With kindness and delight, Irie Sensei gave me the opportunity to study in Irie lab under his guidance for three years. I have experiences in remote sensing of water vapor and evaluating WRF cloud properties with radiative transfer model, while I wished to explore scientific problems connected to aerosols. During the period of deciding my doctoral dissertation title, Sensei, as well as other members of Irie lab helped me as much as they can and showed their great patience and kind to me despite of my poor Japanese. At last, my doctoral research title turned to be "Retrieval of aerosol properties from GCOM-C by Machine Learning", which is my research interest.



From the left 1) the best water vapor information layer of ERA-interim, 2) the comparison of brightness temperature between WRF simulated and Himawari-8 observed, 3) the sketch map of my doctoral dissertation.



From the left 1) the photo of Irie lab after I arrived, 2) the hand-made cake on my welcome party.

Besides study and research, Irie Sensei and members of the lab also gave me generous help, which made me feel at home even I did not come to Japan due to severe COVID-19 pandemic until June 2022. After I arrived in Japan finally, we had fun on my welcome party face-to-face. Living here with their cordial care and help is the easiest thing I have ever done. I am grateful for having a good chance to do research and communicate with the members in Irie lab, as well as experience Japanese culture and life.